



# ありが隊新聞

Vol.69

2018年12月25日  
編集者:本多 紗智



ここにちは。寒くなつてきましたね。最近、阿智村で自家用車が故障しました。外気はマイナス2度。外でレッカーを待つてたので風邪をひきました。色々辛いです。

そんなことはさておき！12月8日(土)に東京の武蔵野大学で行われているじゅんぐり祭に参加してきました。学生が天龍村の商品を販売してくれることでそのお手伝いをしてきました。お釣りをあまり準備していかつたり、試食をたくさん食べたりと物販始めはやりたい放題でしたが、徐々に商品を買い取った現実に気付いて一生懸命になつていきました。どうすればその商品を買つてもうえるのか、次の物販ではどんな備品が必要になるのかなど色々学生たちで考えることができたと思います。

12月22日(土)には東京昭島モリタウンでモリのマルシェがあり、そこに2人が出店します。マルシェで自信を持つて販売できるように今回の物販で気付いたことや反省点を活用して楽しく物販してほしいと思います。2人が楽しく物販をしている姿を見て嬉しく思いました。細くともいいから天龍村と繋がっていてほしいですね。また会いたいです。

回覧の頃にはマルシェは終わっています。どんな結果か気になるわー。

## まえたの天龍山暮らしへ入門～

文:前田 美沙

久しぶりに東京に行つた時のキラキラクリスマスマードに、なんだか異國の地に來た気分になりました。そんな私はクリスマスイヴくらいに餅つきをしている予定です。

さて、天龍村に来て5か月目に突入いたしました。凄く早かつたなあと感じると同時に、この4ヶ月間であつた出来事を振り返ると、3年くらいの濃さに感じたりもします。

最近、天龍村に来ると決めた時ことを時々思い出します。

様々な地域の協力隊募集の中から、長野県内で探した時に「天龍村」という村に目が留まりました。

「ここだ！」と思つて決めたというより、「天龍村はすこしい山奥だから獣が沢山いるんだなあ。獣師の人もいるのかな？」という感じで興味を持ち、あまり深く考えずにエイヤと決めたのを覚えています。

当初は活動と並行で狩猟を学びたいという思いが強く、村に興味があるというよりはこの環境の中で自分の習得したい技術を学びたいという様に考えていました。それからかれこれ4ヶ月たち、天龍村で様々な方にお会い、体験してきた中で私の考え方、少し変わってきたように感じます。

私は前述したように「狩猟」「農業」「山仕事」に重きを置いた活動をしています。内の方々に師匠になつていただき、実際に村で変わつてもらつていてる感じです。

農家だったところにリスク分散で野菜の作目を季節で変えたり、冬の仕事がなくて、別の仕事をしたり、「一年の中で仕事を組み合わせる」働き方などもできることを学びました。

話は変わりますが、農業に関しては異常気象が頻発し、野菜が全くできなかつたり、温暖化で変な時期にできすぎて産地が被り、安値になつたりすることが昨今増えてきました。

私の知り合いの農家でも夢を抱いて新規就農し、しばらくは順風満帆だったのに、災害や異常気象の影響で借金を返せず離農した方が多くいます。

農地がない天龍村に限らず環境問題として「全国的に農業だけでは安定して食べていくことが難しい」と考へた時に、多役の働き方ができたら可能性が見えます。

そして何より、天龍村の「高齢の方の多くは、「自分で生きる力や知恵」が圧倒的に高いです。

水はひねれば火はコンロから、電気が急にストップする可能性も身近になつてきた環境の中で、今その技術を見直さないと、とても危険で勿体ない」と感じます。

なんだかダラダラと長くなつてしまいましてがつまりはまだ何もできませんヒヨツ」という感じです。天龍村の色んなお師匠の方々にまずは弟子入りさせて頂いて、色々経験を積ませてもらいたくて楽しみながら村内をウロウロしているこの頃です。



感じています。

これからもよろしくお願いします。柴田



12月10日(月)～12日(水)まで同期の協力隊が遊びに来てくれました。くねくねの道や中井侍の景色に驚いていました。宿泊は満月屋でした。私は車が故障中のでみんなと一緒に泊めてもらつことに。囲炉裏で美味しい料理をみんなで食べる幸せいでした。終始笑顔が絶えませんでした。(柴田は満月屋初宿泊でした。)

福島県伊達市・山形県南陽市・新潟県佐渡市・佐賀県基山町から遠路はるばるありがとうございました。協力隊の初任者研修で出会つて友達としても関わることに縁を感じています。

最後に、私は12月で任期途中ながら協力隊を退任します。お世話になつたみなさん全員にご挨拶できず申し訳ありません。これからは細くても天龍村と自分なりに関わっていきます。今の目標は地元・関西での就職と来年行われるであろうお茶摘みツアへの参加です。家族・友人・知人に天龍村を知つてもらつて興味を持つて足を運んでもらえるようにプレゼントしていきます。

天龍に来て家事はできるようになります。目つきの悪さは治りました。目つきの悪さは治りました。(笑) 約1年8ヶ月

終わりでなければあつという間でした。

暑すぎるの、体力を使うし、寝れないし、頭が回らなくなるので（今年の夏は酷かった！）、寒いくらいほうが過ごしやすいです。大学生だつた頃、冬にコートを着て、ブーツを履いて、マフラーを顔の半分が埋もれるほど巻いて大學と最寄り駅を歩く時間が好きでした（懐かしいけどあほらしい）。好きな漫画の『リトル・フォレスト』に「寒さも調味料の一つ」という言葉があります。寒いと野菜もできもできず、日々の生活も停滞気味になりますが、寒いからこそできることも多々あつて、例えば干し柿であつたり、寒干し大根であつたり、日本酒や味噌を仕込むのも寒い時期で、料理と同様に様々な変化とアクセントを与えてくれる調味料だと感じます。

気候変動が進むなか、小氷河期なるものに突入するとも言われてたりして、これからどうなるんだと酷く心配ですが、ただただ太陽が昇ると朝になり、沈むと夜になるその延長線上にある季節を感じたい限りです。

■ 電子書籍

# ゆらゆら変遷記~天龍村Ver.~

初瀬健太

■最近の気まぐれ

横に伸びる鉄柵を取り

館向らい無ま飢し  
にき憑の理するたが冬に  
お合きかや。てこと、読書会  
世え物分り昔はまにし  
話るみか読によたらん無すと予  
なういなで駄がまつになく、  
つになもな本背自た定も  
いつのるを伸分。がの  
るてが時読みが読み入りや  
こい落もむし純む時そり  
こまちあて粹時そり  
最してりが、に間うた  
近たいま好読好がない  
で。てしきみき取のな  
す休、たなたなれで！  
°日純がのくこな今と  
は粹、かなとい年思  
よに氣そいにと度つ  
く物づうも氣、はて  
図語いでのづ結ぱい  
書とたなをき構スま

そういうえは、ひとつ皆様にお知らせ。お陰様で今年収穫したお米はご予約を頂いている方を除き、完売となりました。ありがとうございました。より一層美味しいお米を作るよう精進しますので、来年度もよろしくお願ひします。

ようやく冬本番という気候になりました。エルニーニョ現象が発表されたので、今冬は暖かくて雪も少ないのかなつと期待していますが、期待すると大体が裏切らわれてゐるような気がします：ドカ雪とか猛烈な寒波に覆われたりとか：。カメムシが多い年や力マキリの卵の位置が高いと大雪になると言われたりしますが、今年は確かに力メムシが少なく（秋の大河内のキャンプ場のトイレにはどこを向いても視野の中に入つてくるほど茶色のカムキリの卵は栗がらの高

刻々天龍村 師走便り

こんにちは。地域おこし協力隊の本多です。  
冬至も過ぎ、今年もいよいよあと僅かとなりました。  
先日、ライフデザイン手帖というものを作成する機会があり、日記とまで行かなくても、日々のちょっとしたことをノートに記していくことは大事だな、と思ったのでゆるゆると続けてみようと思います。

駆け抜けるように過ぎていった2018年。振り返ってみれば、良いことも悪いことも自分なりに消化してきたつもりでいますが、よくよく考えてみると色々な人に迷惑をかけて助けられて今ここにいるんだなあと改めて思います。外のつながりを大切にすると同時に、もっと村の中の色々な方とお話する機会の必要性を感じています。

## 天龍小学校でのイベントに参加



**今月の随筆**(ずいひつとは、心に浮かんだ事、見聞きしたことなどを筆にまかせて書いた文章のことです。)

に戦中・戦後は、小学校の勉強があまりできなかつたと  
いう話を伺いました。その  
話を聞き、改めて小学校の  
勉強を学んでほしいと思いました。  
年齢問わずに。

学ぶ教科は、国語、書写と  
算数を考えています。場所  
は、にせんじカフェで。予約  
があれば、6人程度までは  
送迎できます。デザートと  
温かい飲み物を飲みながら  
学ぶ楽しさを味わいません  
か？

あいさつ運動推進の

にせんじカフエに11月初めて、静岡からオートバイを運転している方が来客してくれました。来年もできるだけ多く店にいて、一人でも多く呼び込みたいと考えています。

## にせんじカフェ 1月 営業日

営業予定日 18日(金)、25日(金)

営業時間 11時から17時まで

営業予定日以外でも予約があれば店を開けたいと思います。

早めに予約をいただけたら鍋もでき  
連絡は 役場まで。



挨拶。されると嬉しい気持ちになりますね。なので、できるだけ自分からするよう心がけています。

授業料・デザート・飲み物込みで  
お一人様三百円で行おうと考えてい  
ます。年齢は問わないので、いろんな  
な世代の人が学び教え合いつぶつがで  
きたらいいなと考えています。